第 2018-35 号

恵みと真理のニュース

2018 年 9 月の一次　恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

再発した癌を神様が治療してくださいました。昨日も今日も永遠に同一でおられる神様の権能を賛美します。

私は1997年8月に乳癌の手術を受けました。教会で多くの方々が祈ってくださり、神様が共にしてくださって手術と治療が良く出来て、その以後の健康の何の問題もなく過ごして来ました。癌の手術を受けてやく20年が超えたから癌が再発するとは思わなかったです。
昨年に頻繁に風邪にかかって病院に通い治療を受けました。しかし、薬を飲んで注射を受けると数日間良くなって再び咳が繰り返して出ました。主日礼拝を捧げる時、聖歌隊席で座って説教を聴くと続けて咳が出て礼拝にざまになるのであめをなめて礼拝を捧げました。主日礼拝と祈り会は後ろの席に座りました。
　教区の期間を決め祈る会に参席して酷く咳をすると隣に座っていた区域長が“最近、肺結核が流行らしいと聞いたけど、肺の写真を撮ってみるのはどうですかと慎重に勧めました。区域長の話の通り検査を受けて見ましたが、何の異常もないと言われました。しかし、咳は相変わらず出ました。その後で右の足がしびり始めました。病院では炎症のようで炎症薬たけ処方してくれました。続けて薬を飲んでも状態がもっと悪化され、左の足首を二回もくじきました。漢方病院に通っても針を打っても治らなかったです。
歩けないほど酷い痛みで我慢できなくて今年、3月28日、以前に通っていた大学病院へ行ってわたしの主治医から診療を受けました。主治医にもしかして癌が再発したのではないですか？”とお聞きましたが“教授は脊椎狭窄症を疑ったか、私を脊椎クリニックで案内しました。脊椎クリニック診療を受ける前X-Rayをとりましたが、異常が発見してMRI検査をした後、癌が再発した話を聞きました。もし、他のところに転移されたしるしがみえたら癌4期だと言われました。
97年に癌の判定を受けた時は体が動かないほど怖くて恐れて不安が襲って来ましたが、今回はおかしくなるほどわたしの心が平安にありました。聖霊様がわたしの心と考えを守ってくださり、大胆にしてくださいました。従って不安にならなくて普通の通り聖歌隊で賛美しながらすべての礼拝に参席して区域礼拝を導きました。他の区域長が気の毒だと思われて私が負かされた区域まで不信者に福音を伝道しました。しかし、私は病気より少しでも活動できるとき、主の事をもっとすると決心して区域長の任務をするため最善を尽くしました。そんな私を神様がきれいにみてくださったようです。
享年の4月10日に重傷患者で再登録され、正確な検査を受けるため11月から13日まで2泊3日間 MRI, PET, CT撮影などさまざまな検査を受けました。その結果が出る前18日、水曜礼拝に参席した時、当会長の超ヨンモク牧師が歴代誌上19章の講解説教をしてくださいました。その御言葉を聴くうちにいつもよりもっと恵を受けて心が感動されわたしの病気を通して神様が栄光を受けると確信を得ました。礼拝が終わって教区伝道師に言って神様がわたしの祈りに答えてくださったと話したら共に喜びました。
次の日に病院に行って医師から検査結果を聞きました。右の鎖骨　脊椎、両方の骨盤まで転移されていて大きくて小さい癌細胞が体のあちこちに広がっているとしました。そうしたら、治療を受けないとしました。すると、教授は21年の前と今の治療の薬は効能が良くなったとしました。抗がん剤の注射の代わりに鎖骨の下にある癌細胞は少しとって培養してみてそれにあう抗がん剤を先に飲んでから、その治療の結果によって“サイブナイフ”放射線治療をするとしました。神様は自然系の各種の物質に人が健康を維持して病気を治療するため有効な成分が存在させて人々に治療する記述を開発するようにしたという当会長の牧師のお話が思い出して順応しました。
　その日から治療に入って4月20日から7月12日まで１次２次３次、抗がん剤薬を服用しました。
その途中で６月２８日に状態がどうなったか確認するためCT撮影をしました。薬を買いに行った７月１２日、医師が結果を話しながら腰の下の方がちょっと異常があるとしました。正確な判読のため次の日にMRIと PET検査を再び受けました。そんな後、１７日に再び結果を聞くため旦那と共に病院に行きました。旦那は以前、教会に通ったが神様をあまり信じなくて結局は教会に行かなかったです。
神様の奇跡が起こりました。再発した時の写真と今取った写真を比較した瞬間、私はびっくりしました。目で見えた癌の細胞がどこに行ったかなくなりました。医師は“そんなに多かった癌細胞が全部どこに行ったのか。”としました。私が答えて“神様がなくしてくださいました。”そうしながら教会で牧師が祈ってくださって、教会に祈ってくださる方々が多いとほこりとして話しました。私も旦那も神様の限りない能力を体験した日でした。４月１８日の水曜礼拝で私を通して栄光を受けられると神様が答えてくださって、こんな驚くな事が起こりました。
旦那も診療室を出るとたん我慢した涙を流しました。そんな旦那に“こんな驚くな事みても神様を信じないですか？”言いました。目に見えた癌細胞がなくなったが、もし、 巧妙に隠れてあるかもしれないがん細胞を消滅させるために医師が４次抗がん剤を消防してくれて服用しながら徐々にその量を減らしています。すぐ、完治判定を受けるのを確信します。
７月２０日金曜祈り会で当会長の牧師が詩篇４０章のダビデの王の証に関する御言葉を話してくださいました。その御言葉を聞いて従順する心で、神様に栄光を捧げるため証を決心しました。
牧師が続けて主日礼拝で二週間連続に神様の癒しについて説教を証拠してくださいました。説教を聴きながらわたしの口でアーメンと答えが出ました。
ハレルヤ！ わたしの魂よ、主を賛美せよ。 命のある限り、わたしは主を賛美し／長らえる限り／わたしの神にほめ歌をうたおう。 君侯に依り頼んではならない。人間には救う力はない。 霊が人間を去れば／人間は自分の属する土に帰り／その日、彼の思いも滅びる。 いかに幸いなことか／ヤコブの神を助けと頼み／主なるその神を待ち望む人（詩篇：１４６：１～５）
生きている間、主が天国に呼ばれる日まで神様を仰ぎ委ねて愛しながらまじめで忠誠して聖徒らしく使命と職分を担えます。今日も生きておられて働かれる神様の名を賛美します。

［信仰コラム］　私の平安、私の喜び

”わたしは 平安をあなたがたに 残して 行く. わたしの 平安をあなたがたに 與える. わたしが 與えるのは, 世が 與えるようなものとは 異なる...”（ヨハネによる福音書 14:27, 15:11）

幸福の要素の中で除くことのできないのが ' 平安と喜び ' です。財物が多くても心が不安で憂鬱な人は幸いではありません。高い地位を持っても心に平安がなく侘しい人は幸いではありません。なので人々は平安と喜びを渇望して、それを得るために様々な手段と方法を使います。しかし、この世が与える平安と喜びはすぐ枯渇されます。後遺症もできて蜃気楼のようなこともあります。このような人生達にイエス様が恵ましいメッセージを宣布なさいました。”わたしは 平安をあなたがたに 残して 行く. わたしの 平安をあなたがたに 與える. わたしが 與えるのは, 世が 與えるようなものとは 異なる. あなたがたは 心を 騒がせるな, またおじけるな”、”わたしがこれらのことを 話したのは, わたしの 喜びがあなたがたのうちにも 宿るため, また, あなたがたの 喜びが 滿ちあふれるためである”。
イエス様が与えてくださる平安と喜びはイエスキリストを救い主として信じて迎接する全ての人に与えてくださる恵みです。しかし、主の驚くべきな平安と喜びを享受して生きるためには私達がすべきことがあります。
第一、心を尽くしてお祈りして賛美すると主が与えてくださる平安と喜びを享受することができます。
ピリピ城で福音を述べ伝えていた使徒パウロの一行が行く道に占いの霊につかれた女奴隷から悪霊を追い出しました。このことでパウロとシラスは官員達に多くむちを打たれて獄に封じ込められました。お腹を空いて喉は渇き、むちを打たれた体の苦痛がますます加えていくので夜が深くなってもパウロとシラスは寝ることができなかったでしょう。しかし、真夜中ごろになって彼らが声を出してお祈りして神様を賛美しました。その時、獄の土台が動いて門が全て開かれ、鎖が解けられました。パウロとシラスが獄で祈祷して賛美を歌った場面は私達に優れた鏡になります。いかなる都合でも心を尽くして祈祷して賛美する人の心霊には主イエスキリストによる平安と喜びが満たされます。
第二、神様の御言葉を黙想して、その御言葉に基づいて信仰で話すと主が与えてくださる平安と喜びを享受することができます。
パウロが第 3 次伝道旅行を終えてエルサレムを訪問した時、パウロの伝道活動を妨げるユダヤ人のため騒擾事件が生じたことによってパウロは囚人のように獄に囲まれました。2 年の間をひたすら拘留されていたパウロがローマの皇帝に上訴して他の囚人と共に親衛隊の百人隊長と護送の下でローマに行くことになりました。船が最初は順調に出発したが、その後 ' ユーラクロン ' という暴風が吹き下ろしました。その船には船員と商人、軍人と旅行客そして囚人まですべて 276 人の人々が乗っていました。暴風は続いて太陽と星が見えない中で船は荒い風浪に押されて地中海を漂流しました。人々は泣き叫んで右往左往しました。全ての人が何も食べられずに恐怖と絶望で怯える日が数日続きました。
暴風は続かれて船は難破されていく最悪の状態でパウロが死亡の恐怖に拉げて疲労困憊している人々の中に立って叫びました。
”元氣を 出しなさい. 舟が 失われるだけで, あなたがたの 中で 生命を 失うものは, ひとりもいないであろう. 昨夜, わたしが 仕え, また 拜んでいる神からの 御使が, わたしのそばに 立って 言った, 『パウロ よ, 恐れるな. あなたは 必ず カイザルの 前に 立たなければならない. たしかに 神は, あなたと 同船の 者を, ことごとくあなたに 賜わっている 』. だから, 皆さん, 元氣を 出しなさい. 万事はわたしに 告げられたとおりに 成って 行くと, わたしは, 神かけて 信じている”。
平安で確信に溢れたパウロの態度は全ての人を圧倒しました。その後パウロが完全に主導権を持って陣頭指揮して結局一人も死亡せず全て島に上陸しました。誠な信仰は最悪の場合にも神様の御言葉通りになることを確信することです。神様の御言葉を完全に信じると私達の心の中に平安と望みが満たされます。いかなる状況でも心を尽くしてお祈りして賛美する人はイエスキリストが与えてくださる平安と喜びを享受することができます。どんな都合でも聖書の御言葉を黙想してその御言葉に基づいて信仰で話す人はイエスキリストが与えてくださる平安と喜びを享受できます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

伴うしるし

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

イエスは 30 歳から約 3 年余りの間、公的な活動をましたが、天国の福音を宣言し、教え、病人を癒しました。そして、十字架につけられ贖いの死を死にました。死から三日目に復活され、40 日の間に、弟子たちに現れました、弟子たちが見る内で天に昇られました。昇天の前に弟子たちに命じたのを全世界の万民に福音を宣べ伝えなさい、病んでいる人を癒し、聖霊を受けなさいしました

弟子たちは、イエスの話した通りしました。彼らはエルサレムの家に集まって熱心に祈りました。それから十日になって、聖霊のバプテスマを受けました。聖霊に満たされて力を受けた弟子たちは、大胆で熱心に福音を伝えて病人を癒すことをしました。 マルコによる福音書 16 章 20 節に記録されることを**「弟子たちは 出て 行って， 至る 所で 福音を 宣べ 傳えた．主も 彼らと 共に ゆき， 御言に 伴うしるしをもって， その 確かなことをお 示しになった」**としました。主がともに仕事したということは、昇天されたイエスが聖霊降臨によって、弟子たちと一緒におられて癒しはじめしるしが続きしたという意味です。 「伴うしるし」と形容しました。従うのは、そのしるしに先行していることがあったことを意味します。主がくださるしるしに従うために、まず何によりもあるものがあります。それは信仰です。神の約束があっても信じなければ、その約束の成就を見ることができません

神がアブラハムに言約してを彼の子孫にカナンの地を企業に与えるという約束をしました。カナンの地に居住していたアブラハムの子孫は飢饉が深刻する際に、エジプトに移住しました。エジプトの総理になったヨセフは王の承諾を受けて、彼の父親ヤコブとその子孫を招待したのです。ジョセフのおかげで、イスラエル人はエジプトで優遇を受けて生活し繁栄しました。ところが、歳月が過ぎて、ヨセフを知らない他の王朝がエジプトを統治しながら、イスラエルの子孫たちは、奴隷の扱いを受けました。かつて神はアブラハムに言われた **「あなたはよく心にとめておきなさい． あなたの 子孫は 他の 國に 旅びととなって， その 人々に 仕え，その人々は 彼らを 四百年の 間， 惱ますでしょう． しかし， わたしは 彼らが 仕えたその 國民をさばきます その 後かれらは 多くの 財産を 携えて 出て 來るでしょう」（ 創世記 15：13,14）**しました

イスラエル人がエジプトに移住したかいつのまにか 4 百年になりました。彼らはカナンの地に帰る心がありませんでした。しかし、つらさが深刻になるので、初めて神に訴えました。神はモーセをイスラエルの子らの指導者に送られました。モーセは神の力を受けて、エジプトの王を屈服させ、イスラエルの子たちを率いてエジプトから連れて去りました。しかし、エジプトから出てくるとき、20 歳以上の人は、ほとんどすべてがカナンに入らず、荒野で 40 年間さまよって死亡した。その理由は何ですか？彼らは神の約束を信じていないたからです。彼らが最初から信じないわけではないでした。信じたので、エジプトで出ました。ところが、途中で信仰を捨ててしまいました。これ見たとき、私たちは、神の言約が成就されるまで信仰を継続的に身につけるという教訓を得られます。信仰を毀損させる障害物が横に置かれたとき、これを克服しなければなりません

神の約束が自分に現実化するためには、信仰を結合させなければなりません。約束の知識だけでは伴うしるしを見ることができません。知識は、信仰を持つが、必ず必要なものだが、信仰を結合しなければなりません、その知識は死んだ知識に過ぎません。罪の赦しをうけて永遠の命を得ることだけでなく、聖書に記録された多数の言約は、信じる者のために与えられたものです。信じる者には、その約束が実際化されるしるしに従います。イエスは彼にいやしを受けるために来た人たちに向かって「私がこの事を行うと信じるか」という質問を投げました。「主よ、私は信じます」と答えたら、「あなたの信仰のとおりになりなさい。」と言われました

私たちにしるしが従う信仰の根拠があります。聖書に記録されている神の言葉です。神の言約です。神の言約に信仰を結合するしるしが従うので驚くべき恵みです。聖徒の皆さんは、神の知識や、神の言約の知識を持っているだけで満足ではなく、信仰を結合してください。どのような障害物があってもこれを克服し、継続的に信仰が必要です。そうすれば、主が皆さんと一緒に仕事して伴うしるしを与えています

ここで私たちが注意深く聞いて適用しなければならない言葉があります。箴言 4 章 23 節に記録されることを**「油斷することなく， あなたの 心を 守れ， 命の 泉は， これから 流れ出るからである」**しました。「心を守りなさい」という言葉には、心に持つ信仰を完全に守れという意味があります。信仰を持続されるようにして強固にしなさいという意味です。その方法をこれから説明します

第一に、想像力を活用してください。神の言約に基づく信仰の想像では、しるしが伴います。

信仰は想像を通して豊かになって深くなります。聖書には、私たちの想像を刺激する表現がたくさんあります。**「このような 人は 流れのほとりに 植えられた 木の 時が 來ると 実を 結び， その 葉もしぼまないように， そのなすところは 皆榮える」（詩 1：3）「 主はわたしの 牧者であって， わたしには 乏しいことがない」（詩 23：1）「ひとみのようにわたしを 守り， みつばさの 陰にわたしを隱し」（ 詩 17：8）「しかしわが 名を 恐れるあなたがたには， 義の 太陽がのぼり，その 翼には， いやす 力を 備えている． あなたがたは 牛舍から 出る 子牛のように 外に出て，とびはねる」（マラキ書 4：2）**信仰の想像をする人にはしるしが伴います

第二に、口を開いて言って宣言してください。神の言約に基づく信仰の言葉には、しるしが伴います。

ロ―マ人への手紙 10 章 10 節に記録されるのを**「人は心に信じて義口で告白して救われるので なぜなら， 人は 心に 信じて 義とされ，口で 告白して 救われるからである」**しました。神はモーセに言われ、**「あなたは 彼らに言いなさい『主は 言われる， 「わたしは 生きている． あなたがたが， わたしの 耳に語ったように， わたしはあなたがたにするであろう」（民 14:28）**しました。

イスラエルの民が言った、「私たちがエジプトの地から死んでいるのが荒野で死んだよりよかったのを、どうして主が私たちをこの地に導き、剣で滅びるしようとするのか」 としました

神は彼らが言ったように行ないました。彼らは荒野ですべてが死亡した。一方、ヨシュアとカレブが言った、**「もし， 主が 良しとされるならば， わたしたちをその 地に 導いて行って， それをわたしたちにくださるでしょう． それは 乳と 蜜の 流れている 地です．ただ， 主にそむいてはなりません． またその 地の 民を 恐れてはなりません． 彼らはわたしたちの 食い 物にすぎません． 彼らを守る 者は 取り 除かれます． 主がわたしたちと 共におられますから， 彼らを 恐れてはなりません」（民 14：8,9）**しました。神エホバがカレブが言ったようにしていただきました。聖徒たちが信仰によった言葉は、その言葉に相当するしるしが伴います

第三に、信仰で切実に神に祈ってください。神の言約に基づく信仰の祈りには、しるしが伴います。

ヤコブ使徒は記録することを**「信仰による 祈は， 病んでいる 人を 救い， そして， 主はその 人を 立ちあがらせて 下さる． かつ，その 人が 罪を 犯していたなら， それもゆるされる」（ヤコブの手紙 5:15）**しました。

イエス言われた**「求めよ， そうすれば， 与えられるであろう． 搜せ， そうすれば， 見いだすであろう． 門をたたけ， そうすれば，あけてもらえるであろう． すべて 求める 者は 得， 搜す 者は 見いだし， 門をたたく者はあけてもらえるからである」（マタイによる福音書 7：7,8）**しました

癒しと信仰の賛美を歌えなさい。賛美は一種の祈りです。神は涙を流して求める者をあわれんでくださいます。新約聖書に見れば、病んでいる者がイエスのもとへ来て訴えた言葉は、哀れんでくださいでした**「そこから 進んで 行かれると， ふたりの 盲人が， 「ダビデ の 子よ， わたしたちをあわれんで 下さい 」と叫びながら， イエス についてきた．そしてイエス が 家にはいられると， 盲人たちがみもとにきたので， 彼らに「わたしにそれができると 信じるか 」と 言われた． 彼らは 言った， 「主よ， 信じます 」． そこで， イエス は 彼らの 目にさわって 言われた，「あなたがたの 信仰どおり， あなたがたの身になるように 」（マタイによる福音書 9：27~29）**「神よ、あわれんでください。」この言葉が神の心を動かします

私たちが信仰で行うにもすぐにしるしが従わなかったり、伴うしるしがない場合があります。イエスのなさるのを理解することができなくて困惑しているペテロにイエス言われた「私の行うことを、あなたが、今は知らないで、以後は、知るであろう」しました。ちょうど私達が確信しても良いことは、神が一人一人の益のために配慮されるということです。そして多くの場合、私たちの主イエスは、私たちが信仰に行なう際に従うしるしを下さいます。あなたが聖書に記録された言約に基づいて想像して、話し、祈りと賛美をする時、イエス様が一緒に仕事をいただき伴うしるしをしていただきます。奇跡的な治療を体験するようにしていただきます。あなたは自信を持って実践してください。